

授業計画（シラバス）作成ガイドライン

このガイドラインは、宮崎情報ビジネス医療専門学校で開講されるすべての授業について、シラバスに記載することが望ましい項目及びその記載方法について示すものです。

作成したシラバスは、各教育組織のHPにおいて、Web公開することが求められます。

個々の授業科目の内容の概要や計画を示すシラバスは、学生の学習を支援するためのアウトラインであり、その役割は学習の案内と学習への動機づけとなります。そのため、学生が受講するにあたって何をしなければならないかが理解できるように、学生の視点から書く必要があります。（例えば、授業の達成目標は「教員が何を教えるか」ではなく、「学生が何を身につけるか」という視点での作成が必要です）。

また、シラバスを公開することは、宮崎情報ビジネス医療専門学校における教育内容の詳細を、本学志願者などが把握することの手助けとなります。

さらに、副次的なメリットとして、授業担当教員が他の授業科目の内容を理解し授業内容を改善することなどによって、FD(ファカルティ・ディベロップメント)におけるPDCAサイクルの実質化が挙げられます。

以下、シラバスに記載することが望ましい項目及びその記載方法について示します、参考としてください。なお、本ガイドラインに示す項目のいくつかは、授業担当教員の考え方のみによって記述されるものではなく、各教育組織における教育目標との整合性を保つことが重要であることをご留意ください。

◆シラバス集の共通事項として記載すること

各教育組織(学科・コース、専攻等)における「人材養成の目的」、「教育目標」
「教育目標」は、科目との関連を明確に示せるような形態で記載します。

1. シラバスの項目

シラバスに記載することが望ましい項目は以下のとおりです。

(1)科目の基本情報

(1-1)授業科目名

(1-2)科目コード

(1-3)開講クラス、学年

(2)担当教員等

(2-1)担当教員名

(2-2)実務経験の有無、実務経験内容

(3)開講時期

(3-1)開設学期、授業コマ数、科目選択、単位数

(4)使用テキスト

(4-1)テキスト

(4-2)参考図書

(5)授業形態

(6)授業の目的・目標

(7)授業概要・授業方法

(8)成績基準・評価基準

(9)使用問題集・注意事項

2. 各項目の記載内容・記載方法等

(1) 科目の基本情報

(1-1) 授業科目名

科目表に記載された授業科目名を記載します。

(1-2) 科目コード

開設授業科目一覧に記載された科目番号を記載します。

(1-3) 開講学科、コース、学年

授業を開講するする学科、コース、クラス、学年を記載します。

(2) 担当教員等

(2-1) 担当教員名

科目表に記載された担当教員名を記載します。

(2-2) 実務経験の有無、実務経験内容

担当教員に企業における実務経験があれば、実務経験の内容について記載します。

(3) 開設学期

科目表に記載された開設学期、授業コマ数、単位数を記載します。必須科目か選択
必須科目か選択科目かを記載します

必須科目：必ず履修しなければならない科目

選択必須科目：この科目の中から選んで履修しなければならない科目

選択科目：希望により履修する科目

(4) 使用テキスト

(4-1) テキスト

教科書を使用するかどうかを記載し、使用する場合は書名、著者名、出版社等を明記します。

(4-2) 参考図書

参考文献として紹介する資料がある場合にも、教科書と同じように書名等を明記します。

(5) 授業形態

講義、演習、実習・実験等、授業の形態を記載します。

複数の形態を組み合わせる場合は、その割合も明記します。

なお、『「講義」と「実習」』などのように、1単位に必要な時間数が異なる組み合わせがありますので注意が必要です。

(例) 講義(50%)と実習(50%)を併用する

(6) 授業の目的・目標

各教育組織の教育目標とこの授業科目の関連を、具体的に記載します。授業科目は、各教育組織の教育目標等との整合性を保つことが必要で、ここではそれを明示します。このことにより、学生に学習の意義をわかりやすく理解させることができます。

この授業を履修し、学習目的を達成できた結果、どのような知識・能力などを修得できるのか、観察可能な具体的内容を記載し、その内容については、各教育組織の教育目標などとの整合性を保つ必要があります。目標に達しているかどうかを観察測定することが、成績評価に結びつきます。

(7) 授業の概要・授業方針

授業概要：授業の全体を把握できるよう、授業の概要を記載します

授業方針：受講にあたって必要となる条件や前提となる知識・能力などを記載し授業形態を複数種類組み合わせている場合は、それぞれの内容も提示するのが望ましい

(8) 成績基準・評価基準

当該科目の到達目標に対する達成度を、どのように測るかを記載します。受講者が達成目標に到達したかどうかを判定できる方法と基準を用いることが必要です。そのため、ここでは、以下の3項目について記載する必要があります。

① 評価方法(提出期限等を含む)

小テスト、課題、期末テスト、レポート課題(テーマ)等を、提出期限や試験の時期と併せて記載します。このことにより、学生は計画的に準備を始めることができます。また、授業内容に対する質問等を義務付ける場合には、その最低回数や、成績評価への反映方法等についても記載します。

② 割合

複数の評価方法を使用する場合は、それらの配分割合を明記します。

(例)テスト60%、レポート20%、毎回のコメントシート20%

③ 評価基準

到達目標に達するまでの経過点をいくつか示し、各段階での採点基準を明確に記載します。複数の評価方法で測定した結果を総合的に判定する場合でも、それぞれの測定結果をどのような基準で判定し、それをどのように総合的に判断するのかを、可能な限り記載します。なお、評価基準は測定可能なものとし、学生から採点根拠を照会された場合、明確に回答できるようにしておくことが必要です。

(例)※レポートを評価方法としている場合

「適切な問題が設定されている」

「設定した問題の背景を説明している」

「設定した問題に対してどのような課題が存在しているのかを指摘できる」

(9) 使用問題集・注意事項

テキスト以外に学習しておいたほうが望ましい問題集等を記載します。

また、受講生にのぞむことや、受講上の注意点等があれば記載します。授業中にお互いに不愉快な思いをしないために、具体的に、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱い等を明確に示します。

(10) 授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他

単位の実質化を図るにあたり、1単位の修得に必要な学習時間は45時間(講義の場合は受講15時間と予習・復習に30時間)となっていることを考慮するとともに、学生にもその趣旨を認識させる必要があります。ここでは、授業外における学習方法・内容について記載しますが、学生に自主学習を望むことは困難である場合も想定されるため、授業外学習として何を望んでいるか、具体的に指示する必要があります。

(例)「指定した教科書の〇〇を事前に読んでおくこと」

「授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること」

「毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと」

「次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと」

(学) 宮崎総合学院 ○○○○専門学校

授業科目名	□□□□□	科目コード			
開講クラス	○○○○○科	コース	○○○○コース	学 年	○年
担当教員	×××× ××××		実務経験教員 (有 ・ 無)		
	実務経験内容				
開講時期	前期・後期・通年・特別講義・その他		授業コマ数	○○時間	
	必 須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	○○単位	
使 用 テキスト1	書 名	××××××××			
	著 者	△△△△△△△			
	出版社	○○○○○○○			
使 用 テキスト2	書 名	××××××××			
	著 者	△△△△△△△			
	出版社	××××××××			
参考図書					
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他 ()				
＜授業の目的・目標＞					
＜授業の概要・授業方針＞					
＜成績基準・評価基準＞					
＜使用問題集・注意事項＞					
＜授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他＞					

授業科目名		□□□□□
回	授 業 内 容	備 考
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		